

沖縄を訪問する外国人観光客の動向



運輸部

その2

運輸部では今般公表された「出入国管理統計年報(平成十一年)」(法務省)を基に、沖縄を訪問する外国人観光客の動向と今後の課題について次のように取りまとめました。

外国人観光客の動向

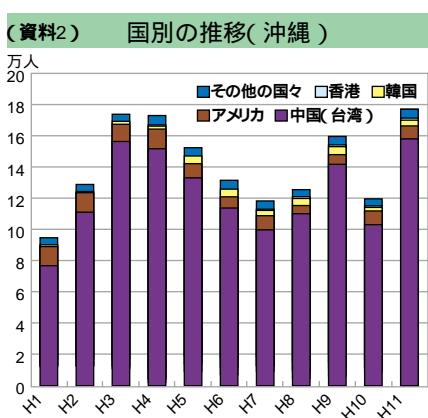
一、平成十一年に沖縄に入国した外国人は十七万七千三百人。日本への入國外国人は四百九十八万人であるから、沖縄のシェアは三・六%である。

(資料1) 入国者数の推移
(全国)万人
(沖縄・北海道)万人

期間	全国 (万人)	沖縄 (万人)	北海道 (万人)
H1	300	0	0
H2	350	0	0
H3	400	520	0
H4	400	520	0
H5	380	480	0
H6	380	400	0
H7	350	380	0
H8	450	380	0
H9	480	350	0
H10	480	380	0
H11	500	400	0

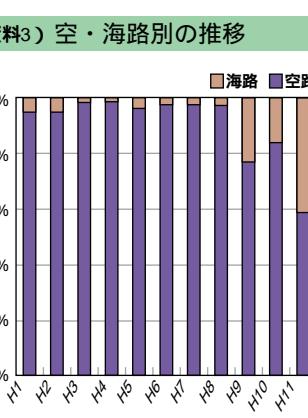
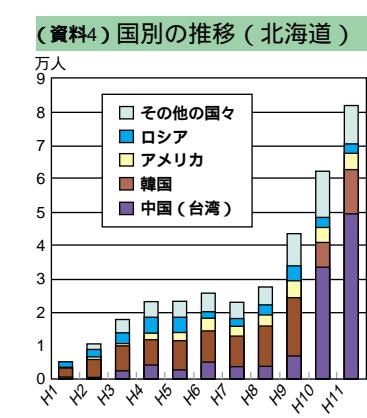
二、過去十年間の外国人訪問客の%に過ぎない。

沖縄の国際観光は台湾人観光客で依存しているといえよう。(資料2)
四、沖縄への入国情況を空路と海路に分けて見てみると、平成八年までは空路が九十五%以上と圧倒的であ



たが、平成九年以降クルーズ船の寄港に伴い、海路の割合が増加し、平成十一年には四十一%と空路と海路の割合が拮抗してきている。(資料3)
五、参考に北海道について見ると、総数は八万一千人(平成十一年)で、沖縄の五割弱であるが、順調に増加して

おり、特に平成九年以降増勢を強め、毎年五十%程度増加している。



九州・沖縄サミットを契機として、海外のマニアを通じて沖縄の情報が広く発信された。基地問題等、観光と直接結びつかない報道も多かったと思われるが、国内と違い、海外で無知に近づく沖縄が広く認知された意義は大きい。

次に、欧米であるが、欧米諸国は遠隔であり、なかなかヨーロッパの対象を絞り込むべきである。例えば、サニティアを契機として、運輸省・国際観光振興会が旅行会社の招請事業を実施した国(英國、フランス、ドイツ、オランダ)に対するロードマップは有効と看えられる。

遠く国々はあるが、彼らの海洋リゾート志向に沖縄は合っている。
「ヨーロッパだけでなく、英語、中国語等、外國語表記の充実や観光従事者の語学教育等受け入れ体制の整備も、もちろん併せて行っていく必要がある。